（タスマニア 6）　　**クレイドルマウンテン国立公園（世界自然遺産）**

タスマニア島の西部山岳地帯の北部にあるクレイドルマウンテンを中心としたエリアは最も人気の高い観光地で、外部から訪れてくる観光客も必ずと言っていってよいくらいコースに入れている。

広大な面積の国立公園には大小様々な湖沼があり、太古の氷河がもたらした風景と原生林と野生棒物や高山植物が見られる場所がある。

実を言うと、このシリーズの No.①に載せた野生動物の写真はここで撮ったものである。ワラビは宿泊したホテル「クレイドルマウンテンシャトー」の庭に朝集まってきたものだし、タスマニアデビルは公園内の保護施設で見たものでウオンバットやハリネズミは道筋で見かけたものだ。

大自然を楽しむトレッキングコースはすこぶる多い。長いものでは 65km もあるコースもあるようだ。

湖畔から少し離れた駐車スペースから目の前にクレイドル山（1,545m）とドーブ湖が見えている。

まずは案内板を見てコースを選択する。当日は残念ながら雲が厚く、すぐにでも雨が降り出してくる空模様だった。一行の中には、手前の山に登って隣にあるもう一つの湖までのトレッキングを選んだ人たちもいたが、自分はドーブ湖の周遊コースを選択し、色んな角度から湖とクレイドル山を見ることにした。一周６km、上り下りが有るので 2 時間のトレッキングコースとある。左から時計回りに歩く。

道は狭いが良く整備されている。歩きにくい所には木道を敷いてある。その道を山側の原生林と湖側を交互に眺めてのトレッキングで飽きることがない。

南極ぶなの森の林床にはコケが生い茂っている。天候が変わりやすく雨が多い地域らしく、鬱蒼としている。日本の森林の様相に実に似ていた。

コースは森の中の小径を上ったり湖畔の脇に沿ったりしている。

所々樹木を通して湖が顔を出す。手前にあるにはタスマニア固有種のカンダニだろう。今、丁度夏の季節になっているので、全体に緑が濃いが秋には見事な紅葉が見られるそうだ。

雲が厚く、時折小雨に見舞われるが幸いに連続して降ることはなかった。傘を開いたり閉じたりしながらのトレッキングになる。

気温も丁度よく、汗をかくこともない。森の中の空気は澄んでいておいしい。少し進んでは周囲を見回しながらの森林浴だから疲れることもない。

道端には高山植物の花が咲いている。名前はわからないが色んなものがあって楽しい。見つけてはみんなで眺めまわし、写真を撮っておく。

　右の赤い花に絡まって見えているのは飛び苔である。飛び苔は軽く、風で飛んで付着したところで生育する。下の写真がその正体だが、これは日本でも同じものを南アルプスの森で見たことがある。
　同じものをまったく反対の位置にある場所で見るのはある種の感慨がある。

　周囲の景色を楽しみながらのウオーキングで予定時間を過ぎて中間地点のクレイドル山の麓に到着する。下の写真はクレイドル山とその反対の湖。中央が出発点。右側を歩いてきたことになる。

　クレイドル山は険しい岩山で登るのは難しそうだ。ここの麓にある休憩所で昼食をとった。
休憩所といっても木製のベランダに椅子がそなえてあるだけの簡単なものだ。途中に数箇所同様な休憩所が見晴らしの良いところにあるが、数は少ない。欧米人のパーテイが先に居たが、そこに割り込んで食事をしながら交歓し記念写真を撮る。
　昼食はホテルに用意して貰った弁当である。この周辺には景観を守るために食堂も買い物をする店もない。

皆がホテルで作ってもらったサンドイッチとサラダに果物とジュースを食べるのだが、量は十分だし、自然の雄大な景色を見ての食事は美味しい。しばらく休んでから周回の帰路についた。

雲が厚くなり、湖面も暗い。全体に暗いので、どうしてもクレイドルの山陰と湖面に反射した景色になってしまう。

コースの終わり近くにボート小屋があった。目立たない作りのごく小さなものだ。貸しボートらしいがボートも数隻しかない。湖畔の周囲にある施設はこれしかない。

途中で、借りたボートに乗っている婦人のペアを見かけたがこの広い湖にこの一隻しかいなかった。

景観を守るための配慮が行き届いている。ここは純粋に森林浴やトレッキングで自然に親しむ場所になっていて好ましい。

二時間のつもりが、倍の四時間もかかってしまう。次の予定が近くにあるタスマニアデビルの保護センターで餌やりの実演を見学することになっている。太古から変わらないと思われる景色を目に焼き付けてここをあとにした。タスマニアデビルについてはこの紀行の No.1 に述べたので省略する。

右の写真は原生林の樹冠である。日本の森林のそれとは大分違いがある。